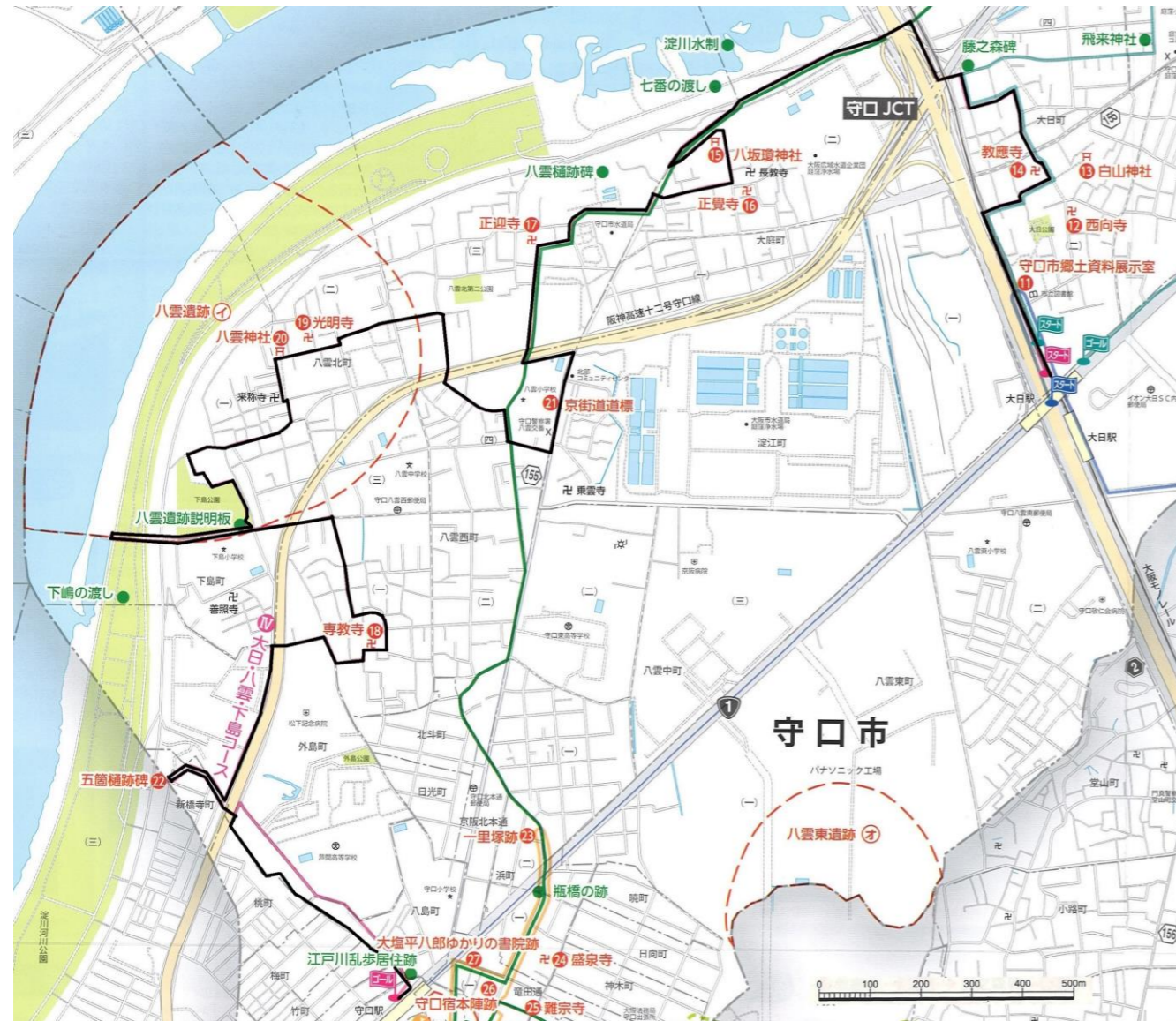


# もりぐち ぶらり歩き マップ

## 史跡散策コースIV (健脚) 大日・八雲・下島コース



**スタート** 大阪メトロ・大阪モルレル大日駅 - (180m) - ⑪守口市郷土資料展示室 (守口市立図書館内) - (320m) - ⑬白山神社 - (60m) - ⑭教應寺 - (340m) - ○藤之森碑 - (630m) - ○七番の渡し跡 - (220m) - ⑮八坂瓊神社 - (100m) - ⑯正覚寺 - (400m) - ⑰正迎寺 - (420m) - ⑳京街道道標 - (830m) - ㉑(八雲)光明寺 - (60m) - ㉒八雲神社 - (490m) - 八雲遺跡説明板(下島公園) - (510m) - ⑱専教寺 - (580m) - ○下嶋の渡し跡 - (360m) - ㉓五箇樋跡碑・御野立所碑 - (桃町緑道公園を680m) - **ゴール** 大阪メトロ守口駅 (全 6,180m)

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)



しらやまじんじゃ  
⑬白山神社



きょうおうじ  
⑭教應寺



ふじのもりひ  
○藤之森碑



ななばんのわたしふきん  
○七番の渡し付近



やしかにじんじゃ  
⑮八坂瓊神社



しょうかくじ  
⑯正覚寺



しょうこうじ  
⑰正迎寺



きょうかいどうみちしるべ  
⑳京街道道標



やぐも こうみょうじ  
⑲(八雲)光明寺



やぐもじんじゃさんどう ほんでん  
㉒八雲神社参道と本殿



せんきょうじ  
⑱専教寺



しもじまのわたしふきん  
○下嶋の渡し付近



ごかひあとひ  
㉓(左)五箇樋跡碑 (右)御野立所碑



ももまちりょくどうこうえん  
桃町緑道公園

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)

もりぐちしきょうどしりょうてんじしつ

### ⑪ 守口市郷土資料展示室

大日の守口市立図書館 1 階に、守口市郷土資料展示室をあらたに開設しました。郷土資料展示室では、様々な実物資料や写真パネルを使って、守口市の地形・地質や、原始時代から近世・近代までの守口の歴史をたどれるよう展示をしています。



郷土資料展示室

しらかまじんじゃ・ふじのもりひ

### ⑬ 白山神社・藤之森碑

旧の三番村・四番村・六番村の氏神で、もとは北西に約300mの御旅所の位置にあったといわれ、今その地には「藤之森」の石碑（写真右）が建てられています。現本殿は覆屋の中に一間社流れ造の白山大権現・春日大明神の二殿が左右に並置されています。建立時期は江戸時代中期の元禄から享保の間と見られています。鳥居には「正徳五年 江戸田井三右門秀弘 松屋町石大工仁兵衛」の銘があります。

きょうおうじ

### ⑭ 教應寺

高林山教應寺と号し、現在は浄土真宗本願寺派の寺院である。創建については詳らかではありませんが、本尊の阿弥陀如来立像からみて、江戸時代前半の建立かと思われます。山門横の釣鐘は明治時代に東三国の大願寺から買い取ったもので、宝暦7年(1757)の銘を有する由緒深いものです。

やさかにじんじゃ

### ⑮ 八坂瓊神社

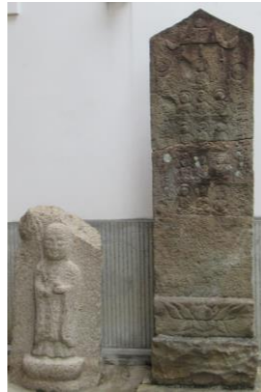
祭神は素戔鳴尊(牛頭天王)で、京都祇園の八坂神社から勧進したとされ、旧大庭七番村の氏神として祀られたとされます。社殿は慶長年間「大坂の陣」で焼失し、元和9年(1623)に再建され、現在の社殿は明治11年(1878)造営されたものです。社前の燈籠には寛文3年(1663)と刻まれ、鳥居には享保8年(1723)癸卯八月二十五日河州茨田郡七番村氏子中とある。「八坂瓊」の「瓊」は「赤い色の玉」の意で、特に御神徳を讃えたものとされます。

しょうかくじ

### ⑯ 正覺寺

もとは大念仏宗来迎寺の末寺でしたが、明治5年(1872)に浄土宗となりました。古くには大伽藍があったと伝えられ、延宝年間(1673~81)に浄土宗の僧が住み、享和元年(1716)に最譽円察が再建したとされています。

境内にある石造板碑十三仏は大変めずらしいもので、慶長15年(1610)10月15日の銘があります。また、室町時代の石造地藏菩薩が多数保存されています。



石造板碑十三仏(右)と地藏菩薩

しょうこうじ

### ⑰ 正迎寺

創建は観応元年(1350)とされ、那須又五郎為成が、当時小高瀬庄大枝に滞在していた存覚上人に帰依して善正と称し、当寺を開いたと伝えられています。当寺には、伝存覚上人筆十字名号「歸命盡十方無碍光如来」が伝存されており、紙本に筆勢鋭く大書され、紙はやや黒ずみ存覚筆の伝えのとおり室町時代初期頃と推定されています。他にも伝蓮如筆六字名号「南無阿弥陀仏」が伝存されています。

やぐも こうみょうじ

### ⑱ (八雲)光明寺

真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年(806)弘法大師空海の開基と伝えられ、もとは八幡宮寺とも称し、八雲神社の宮寺でした。本尊の十一面観音立像は、守口市内に残る最古の仏像で、国の重要文化財に指定されています。右手を下げ、左手を上げて蓮華瓶を持つ、長谷式の十一面観音立像で、樟の一木造、総高112.7cmあります。両手先や持物・宝冠・台座などは江戸時代の後補ですが、像の主体部は当初の面影をとどめ、藤原時代(10世紀)の彫像として重要です。裏の墓地には、市内で最も古い康永3年(1344)と刻まれた石塔婆があります。



(八雲)光明寺本堂

やぐもじんじゃ

### ⑳ 八雲神社

八雲神社は旧の八番村・北十番村・下島村・南十番村の下番四ヶ村の氏神です。本殿は三間社流造で、向拝の中央柱間には虹梁を通さないという、北河内では珍しい形式をもったものです。令和3年(2021)の改築の際、「文政五龍集壬午九月十一日上棟」(文政五年は1822年)の棟札が発見され、この時に三間社形式にしたものと思われる。



八雲神社本殿

### ○周辺の遺跡

八雲遺跡(八雲北町1・2丁目)

淀川左岸に位置する縄文時代~近世に至る複合遺跡で、縄文時代晩期の滋賀里式土器、奈良時代の人面墨書土器、岡山県万富窯で焼かれた「東大寺」刻印入り瓦、近世のくらわんか茶碗など多数の遺物が出土しています。

また、昭和62年の発掘調査の結果、畿内地域で初めての弥生時代の玉作り工房と考えられる建物跡が発見され、鉄石英やメノウ製の石ノミ、細石刃、細石核等珍しい遺物が多数出土しています。



奈良時代人面墨書土器



「東大寺」刻印瓦

せんきょうじ

### ㉑ 専教寺

嶋名善祐坊の開基でもとは泉教寺と称し、宝永元年(1704)に今の専教寺という寺号に改められました。

この寺に伝わる蓮如上人画像は、墨衣御影と考えられ、絹地に両手で数珠を持った座像が描かれています。絹地はやや粗目の、室町時代後期によく使われたいわゆる足利絹を用い、のびやかな描線で温顔のなかにも厳しさを秘めた蓮如上人の像を描いており、蓮如上人画像としては比較的早い時期の作品として、貴重な資料です。

おのだちしょひ・ごかひあとひ

### ㉒ 御野立所碑・五箇樋跡碑

大正天皇がまだ皇太子だった明治43年(1910)に、工兵隊の架橋大演習をご覧になった場所で、記念に大正13年(1924)に「御野立所」碑が建てられました。五箇樋跡碑は、守口・小高瀬・寺方・橋波・稗島の五ヶ庄が、淀川から飲料水を引いた樋の記念碑で、昭和6年(1931)に、少し北の淀川堤防下に設置されました、御野立所碑の隣に移設されました。

### ○周辺の遺跡

八雲東遺跡(八雲東町1丁目周辺)

縄文時代~近世に至る遺物が出土しています。ことに瓦器碗や土師皿等、中世の遺物が多量に出土しています。

また、慶長元年(1596)の伏見地震の際に生じたと考えられる、液状化した層と噴砂が明瞭に残っており、各方面から注目されました。



液状化した地層と噴砂